

# 鳥取大学と連携(2)

## 共同研究



今回は、総務課が鳥取大学と取り組む共同研究（大山町の津波対策）についてお知らせします。

### 鳥大生が海拔測量実施

東日本大震災で甚大な被害をもたらした津波被害を踏まえ、住民の津波災害に対する防災意識の醸成を図るため、また、避難する際に目安となる海拔表示板を、日頃目に触れる機会が多い集会所、避難所等60か所に設置するために海拔測量を実施しました。

9月12、13日の2日間、鳥取大学の学生と教員による海拔測量を2班に分かれて行いました。この海拔測量で測定したデータは海拔表示板、津波ハザードマップの海拔情報の基として活用しました。



▲鳥大生による海拔測量の様子

### 津波対策講演会

10月28日（日）、総合防災訓練を行った日の午後からは、鳥取大学連携事業の一環として、保健福祉センターなわで津波対策講演会を行いました。

講師は、とっとり防災・危機管理研究会会長でもある鳥取大学大学院工学研究科教授の松原雄平氏で、「大山町の津波浸水予測と減災について」と題して講演していただきました。

講演には、およそ1000人が来場し「津波の速さは、水深400mでは時速800kmで進み、とても速い」ということや「大山町で全戸配布された津波ハザードマップを安心材料にはしていない。」などの講師の話に熱心に耳を傾けました。

鳥取大学との共同研究で、津波災害に対する町民の避難意識の高揚と、安心・安全なまちづくりがさらに進むことが期待されます。



▲自分たちにできる備えは？